

山田昌子

Yamada Masako



勝山地域で行われている
のれんカフェ



寸劇を披露する
キャラバンメイト



山田昌子さん(多田)

真庭市認知症キャラバン・メイト連絡協議会 代表

平成20年、認知症キャラバン・メイトとなる。

平成27年に真庭市認知症キャラバン・メイト連絡協議会の
会則ができると同時に代表に就任。

真

M A N I W A B I T O

庭人

熱意を持って活動するキャラバン・メイト

真庭市の認知症キャラバン・メイトは約400人。この人数は全国的にも多く、活動も精神的です。活動の中心は認知症への正しい理解を広める認知症サポーター養成講座の開催。養成講座を受講した人数が1万人を超えた今でも、毎年約500人ずつ増やすことを目標に活動しています。その他にも、認知症の人もそうでない人も、誰でも気軽に参加できる認知症カフェ、家で過ごすことの多い高齢者と、お話をしに訪問する傾聴ボランティアといった真庭市独自の活動もあり、市外からも注目されています。真庭市認知症キャラバン・メイト連絡協議会

の代表を務める山田さんは、「キャラバン・メイトの皆さんが、みんな熱意を持って活動してくれています。私はただ、皆さんの活動を広める役割をしているだけです。」と話します。

熱意ある活動ができていっているのはなぜでしょうか。山田さんに尋ねると、「認知症の人は、ここ10年くらいの間にすごく増えた気がします。キャラバン・メイトの皆さんも、身近に認知症の人がいたり、仕事で認知症の人に関わっていたりする人が多く、それぞれに思いがありますから、それが活動につながっているんだと思います。」と教えてくれました。

大切なのは「みんなでやるう」という気持ち

「活動を続けるということは大変だけど、キャラバン・メイトの皆さんは、やりがいと使命感を感じながら、積極的に活動に参加してくれる。認知症カフェの参加者が新しい参加者を連れてきてくれる。市の担当者も相談に乗り、一緒に考えてくれる。認知症対策をみんなでやるうという雰囲気が出ています。」と、山田さんは活動の継続に大切なことを話してくれました。

